

# 釣れ釣れなるままに

1999年思い出の釣行記 PART. 2

# 捕らぬ狸の...

## 鹿島釣狂

### 釣遊会第2回大会

☆開催日 平成11年5月23日

☆開催場所 大平川～栄浜漁港

☆入釣場所 穴潤平盤

☆潮 満潮 19:05 19cm

干潮 03:57 6cm

満潮 12:13 21cm

☆釣果 ホッケ 362 mm 4 ハチガラ 2 ソイ 6

ハゴトコ 235 mm 1

重量 1790 g

点数 776 点

成績 19 位

累計 29 点 (10 19)

### ここもあそこも、迷いは深く

今回は私の初めての釣り場範囲であり、どこに入るかは貴社発行の「釣場ガイドマップ」と「海底まる見え、空撮北海道の海釣り」(北海道新聞社編)を頼りにいくつか候補を挙げておいた。

大平川河口は低い岩場で足元から深いため、この辺りから立ち始めるウネリが急に岩の上を襲うので危険なところである。釣り大会で禁止するところが多い。波が静かであれば過去の実績から見るとここを一番の候補に挙げておく。久しぶりにカレイを釣りたい気持ちもある。

蒲原大平盤はあまりにも有名釣り場であり、魚はもう釣り上げられてしまっているのか

も？しかし、一度は入ってみたいところである。本会でもここに入釣して大漁した会員も多い。もしだめなら植車覆道前の櫛の歯状の岩場に入ればよい。

今大会の釣り場範囲の最終地点である栄浜漁港の左平盤も良さそうだ。また、すぐ左の大平盤もさらに良さそうな形状をしている。しかし、この時期ホッケの浮き釣り組でにぎわっており、入る隙間がないことも考えられる。

結局は、当日のバスの中でいろいろとご指導をいただくことになり、穴潤平盤に入釣することになる。ここも有力候補に挙げておいたところなのだが、やはり入釣者が絶えないところなので、自分が入る場所があるかどうかだけが心配なところであった。

### 採らぬタヌキの・・・

第1回大会では不本意に終わった会員が多く、皆、今日の大会にかける思いは同じであろう。私も大釣りをした後の魚の処理まで心配しての参加である。

稀に見る大きなソイは上司へのお土産に・・・。

「カジカ汁が大好きだ」と言っていた同僚にも何とか大物を・・・。

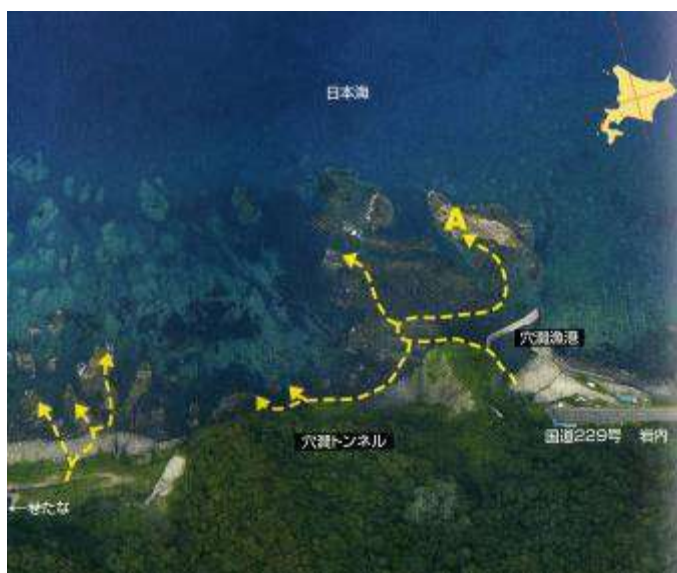
大漁したホッケは職場にもって行くこととして・・・。

ハチガラは魚拓にしなければ・・・。

今の時期のアブラコはまだ虫が入っていないので刺し身にして一杯・・・。

遠投で砂地に届くとあるので大物カレイは一旦冷凍で保存して・・・。採らぬタヌキの何とやらは他の会員も同じであろう。

バスの中で夢膨らませながらチビリ、チビリやっていると、穴潤に到着した。一緒に千



葉、堀内、矢根、秦野氏がバスから降りた。穴潤漁港の防波堤に邪魔されて先客がいるかどうかわからない。穴潤岩の岩穴をくぐり抜け、防波堤の階段を上ると、やはり先客のギョギョライトが何個も青白く光っていた。千葉、堀内氏は穴潤平盤の中央を二分する深い溝の左の平盤に出て行った。秦野氏、矢根氏とともに右の平盤に出た。ねらいのポイントは既に多くの先客で占められており、私たちは少し下がった所に場所を設定した。

遠・中・近と投げ分け待つこと5分、すぐに竿をガガガッと鳴らすよいアタリがある。引きに合わせて竿を煽ると早速根がかりである。同じようなアタリで根がかりなく時々上

がってくるのはチビソイとチビハチガラである。ソイもハチガラもアタリが鮮明でドキッとさせられるがどれもチビばかりである。上司へのお土産にするはずの大ゾイはまだお休みか。魚拓もののハチガラはどこへ行った。コマセが効いてきたのか遠投でホッケも釣れるようになってきた。しかしどれもチビでスマートである。

薄明るくなってきたので、シケぎみの時、防波堤と平盤との間の入り江に入ると言われているカジカの様子を探りに、一本の竿をもってあちこちとうろつき回る。しかし鏡のように波が静かで底まで鮮明に見える岩肌についているカジカはいないようだ。

## ウラヤマシイ

元の場所に戻ると何やら先客が大騒ぎをして集まっている。海の中にギャフを打ち込んでいる。しばらく魚に走られた後、ようやくギャフがかかりドタバタと上がってきたのは45m程のソイだ。腹がイカゴロや撒き餅をたっぷり食っていたらしくはちきれんばかりに膨れている。先客の話によると暗いうちに同じように竿を伸し、道糸を切って行った大物がいたが、こいつがその犯人らしい。ウ・ラ・ヤ・マ・シ・イ……。

一騒ぎの後、すっかり陽が昇ってしまったので、ソイやハチガラ、カジカは諦め、浮釣りでホッケをねらうことにする。岩底には撒き餅に寄ってきた小さなホッケが群れているのが見える。しかし、ふだんホッケの浮釣りでよく愛用している短く細い棒ウキがカンの所で壊れている。他の手持ちがソイ釣りで利用している大きめの中通しウキしかなかったため、それを使用する。チヌ7号の針にガン玉を打ち、大きめのエサをつけてチビホッケの群れの中に仕掛けを送り込んでやった。それがよかったのか、チビホッケを避けて、底の方にいる大型のホッケが食いついてきた。2号の磯竿が満月のようにしなる。上がってきたのは今日の頭となったホッケであるが、海の底で食いついて来たやつよりは一回り小さい。いや、小さいのではなく、底で見えていたホッケが錯覚で大きく見えていたものらしい。35cmほどのホッケをさらに10匹ほど追加したがそれより大きいものは見当たらない。

またまた先客が大騒ぎをしている。何事かと側によってみると、今度は大アブラコである。50cmはゆうに越え、頭に苔でも生えていそうな大アブラコである。先程から遠投を繰り返し30cmぐらいのアブラコを何匹かものにしていた若者がやっとの思いで釣り上げたとのことである。ウ・ラ・ヤ・マ・シ・イ……。

## 次の大会に夢をはせて

浮釣りは諦めて、今度は大アブラコねらいに大振りのカツオをつけて3本とも遠投に切り替える。しかし、ねらいを一つに定め切れず浮気ばかりしている私に釣れてくるのは30cm弱のホッケばかりである。おまけに私が投げているところは根がかりがひどく仕掛けを幾つも消耗した。そうこうしているうちに、締め切りの時間が来てしまった。今回も捕らぬタヌキの何とやらになってしまった。成績の方はホッケ36.2cm+ハゴトコ23.

5 cm + 1790 g = 776 点の 19 位であった。前回はボイズの人が多くて、最低点が 17 点であったが、それよりも悪い成績であった。

優勝は栄浜に入った岡氏で 1160 点、準優勝は千走に入った嵐氏で 1041 点、3 位は栄浜に入った廣田氏で 1033 点、身長優勝は 48.1 cm のアブラコを釣った岡氏であった。

今回はやはり初めての釣り場範囲である恵山方面（大船港～銚子岬）なので大いに胸を膨らませている。帰りのバスの中では、銚子岬の先端で大マコガレイと対戦している自分の姿を夢見ながら帰途についた。

## 大会成績

優勝	岡	1160 点	栄浜
準優勝	嵐	1041 点	千走
3 位	広田	1033 点	栄浜
身長	岡	アブラコ	48.1 cm 栄浜
	島	アブラコ	43.4 cm 狩場
	千葉	クロガシラ	34.0 cm 穴間